

尾池学長特別講演「日本列島の自然-季語の生まれた国」を拝聴して

歴史遺産コース 2015 年度卒業 服部雅子

2018 年 7 月 22 日、猛暑の東京築地本願寺講堂で行われた 瓜生歴史遺産の会第二回総会にて、わが母校京都造形芸術大学学長の尾池和夫氏による講演が行われた。学長は、地球科学の学者であることに加え、氷室俳句会の主宰をつとめられる俳人でもあり、一言では紹介しきれない多才な面をお持ちである。

私は、通信教育部の為か、在学中は学長のお顔を拝する機会もあまりなく、どのような方なのか思い描くこともなかったのだが・・・今回の講演を機に、大変恐縮ながら学長のチャーミングな語り口とお話しの面白さにすっかりファンになってしまった。

冒頭、先ずご自身の自己紹介として「天地人の思想」三才の世界について話されたことが印象深い。三才とは、天（天文学）・地（地文学）・人（人文学）、文とは人である。地文学は、地上の気圏・水圏・地形・地理・地質・地震・火山などの地球と人の学問であるとのこと。学長は地文を研究する学者として、現在は 3D 震源データの開発・解析等にご尽力されている。ご専門の科学研究と俳句は一見かけ離れたものでは？と考えていたが、お話しをうかがっていくと、俳人であることはご研究の中から必然的に生まれた欲求なのかもしれないと思った。

俳句のお話しの中で感銘を受けたのは、ご自身の心筋梗塞手術中に詠んだ句についてである。極限状況にもかかわらず、今この時を思考する姿とともに、俳句はその場の状況、心情を表す究極のメモであるとおっしゃった。俳句を詠むということは、潔く自身に向き合う行為なのかもしれない。

短夜や肺まで届くカテーテル
不整脈四秒続き五月間
蜘蛛の囿や引き戻したる命なり
明易ししだいに近く救急車
山梔子の香にめぐり会ひ車椅子
採血に今日が始まる夏の朝
夏草やポケットにニトログリセリン
夏の朝同じこの世に目覚めたり
薔薇の花咲きつぎ歩行距離延びる
介助の手日焼けしてゐる負荷試験
検温をする細き手の日焼けせる
病窓やピアガーデンが開店す
梅雨晴れや妻と院内散歩する
朝涼し生きて我が家の庭に立つ
我が鼓動も自然の一つ蟬の声
吾亦紅持ちて病後の坂のぼる



「序-天地人の思想・自己紹介」より

続いて、お話は日本に季語を詠む俳句があるのはなぜかへ進んだ。ここでは、宇宙の成り立ち、太陽と月と地球の奇跡的な関係性をわかりやすく説かれた。歴史馬鹿の私の理解するところは、「宇宙の中で一つの太陽を中心に、安定的惑星軌道とエネルギーの供給を受ける太陽系の中の地球。又、その唯一の衛星である月は、絶妙な質量と距離でもって、地球の地軸を安定させ潮汐が海水の循環を作り、多様な生命と自然と季節を生んだ。防御としてのオゾン層の存在や、大気を保持する重力等諸々の偶然がこの環境を形成した」という大地創世の壮大なドラマである。



『太陽と月と地球と』より

これらの大地の営みを感じるには、ジオパークへ行き、見て、食べて、学ぶ方法があるとのお話しはすぐにでも実践してみたいと思う。尚、「人間の脳は太陽の光をうけて活動するようになってきている。だから、徹夜して書いたレポートは脳が働いてないときにまとめているから、かならずお日様の下で確認を！」とのお話しを肝に命じたい。

その後、日本列島について話は展開する。日本列島は四つのプレート上にあり、この移動により開いた新しい海である日本海の影響を受け、中緯度に豪雪地帯を持つ珍しい地形とのこと。四季の変化、暖流と寒流、豪雪と梅雨と台風、噴火と地震と津波、ジオ多様性、生物多様性等々の、特徴を持つ個性的な場所と言え、このような土地柄が、季語を持つ俳句を発展させたとのことで、四季が存在する地学的特徴と俳句の関係性が興味深い。



季語は、中国から流入した四季の考え方を基本としながら、時候、天文、地理、行事などを四季に区分したものである。尚、季語の約束ごとを本意といい、言葉の持つイメージを決めるものとのこと。後日、「本意」について調べると「物の美的本性」（デジタル大辞林小学館）との意があり、俳句と芸術は密接に関係していることを知ったのである。個人的には、大学の授業での席題「大根の葉」で、大根を掲げる学長のショットが秀逸であった。

『大学の授業での席題「大根の葉」より』

さて、お話しは西日本の近未来へと進み、学長みずから 2038 年頃に起こるであろうと推測される南海トラフの大規模地震について、さらに地球社会の調和ある共存へと結ばれた。地球にとって人類はどう存在したのか、「人類の美しい化石を残そうではないか！」との言に大きくなずかすにはいられない。以上、学長講演の面白さをお伝えすることは到底かなわないが、楽しいお時間をいただけたことを少しでもご理解いただければ幸いです。

学長！宇宙から大根の葉まで面白くも、ためになるお話しをありがとうございました。歴史脳の我々にもガツンと響きました。又、俳句も詠んでみたくなりました。

学長室に飾ってあるというチンパンジーのアイちゃんがどや顔で描いて見せた絵画作品、いつの日かぜひ拝見させてください。



京都大学霊長類研究所のアイと松沢哲郎教授

卒業後も、このようにいろいろなことを学ぶ機会をいただけるのは、大変幸せなことだと日々思っております。